平成３０年度夷隅健康福祉センター運営協議会・質疑応答（要旨）

１　平成３０年度主要事業の執行状況について

【総務企画課分（小高副センター長説明）】
質疑応答
なし

【地域保健福祉課分（野澤地域保健福祉課長説明）】
質疑応答
なし

【生活保護課分（金澤生活保護課長説明）】
質疑応答
なし

【健康生活支援課分（中澤健康生活支援課長説明）】
質疑応答
なし

２　意見交換

早川委員（夷隅地域獣医師会長）

風しんが流行しているとの説明があった。予防方法としてワクチンの接種が有効だと思うが、３０代４０代はワクチンを打っていない。対策はどのように行っているのか。

鎗田センター長

先ほど中澤課長から説明がありましたとおり、管内ではいすみ市で発生するなどしましたが、いすみ市と連携をとりながら、感染拡大防止に取り組みそこからの広がりはありませんでした。

風しんの潜伏期間は２～３週間と長く、主症状は、発熱・発疹・リンパ節腫脹を主とし、発疹出現前後の１週間はウイルスを排出します。

風しんは１５～３０％が、症状の出ない不顕性感染となります。不顕性感染者もウイルスを排出し、感染源となります。風しんは妊娠２０週頃までの妊婦が罹患すると、ウイルスが胎盤を介して胎児に感染し、先天性風しん症候群を発症することがあります。これを防ぐことが課題となっています。

そこで、千葉県では妊娠を希望される女性やその配偶者などを対象に、無料の風しん抗体検査を医師会に委託をして実施しております。

川俣委員（肝属医師会長）

当医師会の森川先生のところで、産後ケアが受けられるようになった。有料ですが、都市部に比べると安く受けられるが、あまり周知されていない。

管内の出生件数は少ないが、出産後のお母さんを守っていくことができるので、周囲にお悩みの方がいたら、調べると、管内にも産後ケアを受けられる施設があることを周知していただきたい。